

発行所：地域環境活性化協議会
 編集者：代表幹事 高橋賢一
 連絡先：市民活動支援センター
 尾張旭市渋川町三丁目5番地7
 (渋川福祉センター内)
 TEL 0561-51-2878

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ



伏見櫓と調和した姿はい見ても絶景である

「令和」の英訳となる「万葉集」の言葉にある歌の一節だ。へ物事は改革を良し



皇居の二重橋

高村光雲の「梅の花の歌の序」には、初春の今月にして、気淑く風和らぎ、梅は鏡前の粉を抜き、蘭は瑠璃の香を薫り、



すべては新しくなるのが良い。色や形ではっきり見えるわけで、令和元年である。

笑喜が記されている。美しい令和の巻も多量で埋められるかもしれない。次の時代も戦争がないう。

世の中はいつも連休と変わらぬ穏やかさにみえる。平成の始まりであった。服喪の重さとは、生前退位による代替りの静かな空気の中心より平成の理想は、方も多岐には、時代を日帳とすべからず、元号は最初のページ書き込む目標に似て、近代的な昭和と立派な元号の後に戦争が書き込まれた。平成は戦争のない素晴らしい時代だが、平成が、

▲東京入子にある昭和天皇陵

伊勢神宮宇治橋



万葉の歌は続く、へたしくも今は去り行くが、前時代の人は、古くは新しきもの、新しきものは、古くは新しきもの、新しきものは、古くは新しきもの、新しきものは、古くは新しきもの、



皇居宮殿の入口となる皇居正門石橋は、新年と天皇誕生日、一般参賀のみ